２０２４年度 事業計画

はじめに

２０２４年の元旦に起きた思いもよらぬ「能登半島地震」は甚大な被害をもたらし、２ヶ月経った今でも被災地の復旧は遅々として進まず、多くの皆さんが今も苦しんでおられます。

また世界に目を向けると、さまざまな紛争、災害、人道危機などの現実があり、今も貧困の中に生きる子供たちが数多います。

オーケストラの奏でる音楽は、国境を超えて異なる背景を持つ人々の心を一つに繋ぐ力があります。子どもたちの未来を取り戻し、心に寄り添い、生きる力を与える命にもなります。
人々の心に希望を与え、生きる活力を届けることは、オーケストラに課せられた大事な使命です。

過去から一貫して芸術性と社会性を兼ね備えたトップ楽団として活動してきた日本フィルは２０２６年６月に創立７０周年を迎えます。
これを受けて２０２４年度は、周年事業を具現化していく年と位置付けます。長年にわたり日本フィルを愛し、支えてくれた皆さまに感謝の気持ちをお届けすることで、そのご恩に報い、次の１０年に向けて良き伝統を守りつつ、時代の大きな変化にもしなやかに対応しながら楽団の存在感を高められるよう更なる飛躍を遂げるつもりです。

「芸術性の追求」は、日本フィルのもっとも大事な経営目標であり、このスタンスは今後も変わりありません。
２０２４年度は首席指揮者カーチュン・ウォンを中心に豊かな芸術的感性や文化的多様性の表現を通じて最高水準の演奏を追求し、皆さまに満足度の高い最高レベルの音楽をお届けします。

社会性活動については、長年に亘り続けている「被災地の音楽を」の活動を核に置きながら、社会からの多様なニーズや要請に対して鋭い感度を保ち、地域の文化的発展に貢献し、社会と密接につながる新しいオーケストラ像を作っていきます。

I. ２０２４年度の経営目標

（1）あくなき芸術性の追求

優れた音楽芸術の創出を目指し、卓越した演奏力と練り上げられた企画による良質な作品の上演を通して、「日本フィルらしさ」を表現し、お客様にも満足度の高い演奏会を提供する。また、高い芸術性を聴衆の支持に結びつけることを通し、公演事業の安定化と財政的健全化を目指す。

首席指揮者就任２年目を迎えるカーチュン・ウォンとの、和洋の作品の多彩なプログラミングと聴衆に新鮮な感動を呼び起こす演奏は急速に評価を高めている。２０２４年度も引き続き、カーチュン×日本フィルの魅力を強く発信し、日本フィルならではの個性を軸に定期演奏会の聴衆増強に努めていく。

フレンド・オブ・ＪＰＯ広上淳一とは、引き続き新しい人材発掘、音楽大学との連携等によりクラシック音楽の次世代の担い手を見出してゆきたい。また名誉桂冠指揮者小林研一郎をはじめ、内外の著名かつ優れた表現者たちとの共演を通し、優れた芸術作品をバラエティ豊かにお届けする。

さらに、長期的視野でもあくなき芸術性の追求に取り組み、若手アーティストへの発掘や時には他ジャンルへのアプローチなど、年齢を問わず日本フィルの新たなファン層を開拓するための取組も推し進める。また、優れた芸術性をお客様の満足やファンの拡大に繋げるための事務所体制の強化、専門性の獲得に注力する。

（2）社会性活動の深化：

三世代で楽しめるファミリー音楽会に成長した「夏休みコンサート」、地元ボランティアとともに地域の文化普及活動に成長した「九州公演」が２０２４年度にそれぞれ５０回を迎える。日本フィルらしさを象徴し、長期的に継続している２つのシリーズの節目を聴衆や関係者と喜びあうとともに、次の時代の戦略に取り掛かる。

このほか、がん患者さんと歌う第九、６０才からの楽器教室、耳で聴かない音楽会を契機に継続している落合陽一とのプロジェクトなど、社会性の高い継続的な事業をしっかりと進めていく。

２０２３年に上廣倫理財団が「新たなオーケストラ支援事業」として、社会的活動に対する３年間にわたる約３億円の助成が決定し、活動の一層の展開が可能となった。２０２４年度はとりわけ、２０１１年から継続する「被災地に音楽を」および「東北の夢プロジェクト」の充実と飛躍の年となる。

（３）財政基盤の強化

コロナ禍で傷ついた財政は多くの方々からの支援や寄附等で一時の危機的状況から持ち直したかに見えたが、２０２３年度は受託件数が伸びず演奏料が減少する等、自ら稼ぎだす収入が伸び悩む一方で、演奏事業費を中心に諸経費が予想を超えて膨張し、基礎収支の大幅赤字をもたらした。

この要因は、コロナ禍を通じて定期会員数が大幅に減少し、このリカバリーが実現できなかったことで、安定収入になるはずの会費収入が３年間にわたり大幅に逸失したことや、経費増で大幅赤字となった演奏会の存在などが財政の足を引っ張った。

２０２４年度は、まず、あらゆる手段を講じて定期会員数の回復を図り、安定収入となる会費収入を増やす。また企業や学校等に対する受託や協賛工作を強化することで、演奏料収入の拡大を図り、入場料と合わせて自力で稼ぎだす基礎収入を大幅に改善する。

一方で、予想外に膨れた事業諸経費の使い方については、２０２４年度は演奏会の事業費についても一般管理費についても無駄の排除に務めることで財政バランスの改善につなげたい。

（４）創立７０周年（２０２６年６月）記念企画等の準備

日本フィルは芸術性と社会性を兼ね備えたオーケストラとして、社会において文化芸術団体が果たすべき文化振興の役割をしっかりと担い、その礎を築き、率先して文化団体を牽引していく姿を内外に示していかなければならない。

創立７０周年の年は、これまで楽団存続の危機に直面するたびに支えてくれた多くの皆さま、また長年に亘り日本フィルを温かくご支援いただいた方々へ、心からの感謝の気持ちを伝える機会とし、２０２４年度から記念事業等の準備に着手したい。

具体的計画としては、単なる歴史ではなく長い苦しい時代を切り抜けて今に続く楽団の DNA を編纂した「楽団７０年誌（仮称）」の発行のほか、日本フィルを長く愛し支えてくれた皆さんへの感謝を表す特別演奏会の企画などを想定し、個々の事業内容は２０２４年度中に具体化を図る。

II. ２０２３年度の財政見通し(現時点)と２０２４年度の財政計画

１．２０２３年度 財政見込み

コロナ３年目に入った２０２３年度は、５月からの「５類」移行で規制も緩くなり、コロナとの共生を模索しながら徐々に正常化への道を辿り始めた。
まだ公演ごとにばらつきはあるものの、来場者数は回復の兆候を示し、前年に比べれば入場料収入は多少上向いて来た。

しかしながら、２０２３年度も定期会員の収入が回復せず、逸失収入を放置したままに終始し、財政改善の足を大きく引っ張った。
また演奏料収入の元になるホールや学校、企業等の受託件数を新規で増やすことができず、同じく赤字要因になっている。

一方で、演奏会事業費を含めた諸経費が予想以上に膨らみ、適切なコントロールができなかったことで、結果、基礎収支が悪化し、今期も大幅な赤字となる見込みである。

赤字を補填する国からの助成金や個人・法人の寄附金の状況は、前期までのコロナ対策助成等が無くなったマイナスを民間からの新たな大型助成金で補い前年度よりも増加したが、それでも大幅に膨れた経費増を賄うまでにはいかず、現時点では当期最終損失の拡大は避けがたいものと予想している。

２．２０２４年度 財政計画

２０２４年度はコロナ前の日常社会に戻りそれが続くことを前提に計画を策定、来期の財政計画の要は、自ら稼ぎ出す自己収入の増強と事業経費の抑制がポイントになる。

具体的な概要は別紙ご参照。

Ⅲ．２０２４年度事業計画案

１．オーケストラ・コンサート

◆新首席指揮者カーチュン・ウォンを軸とした公演活動

シンガポール人である新首席指揮者カーチュン・ウォンとの企画の柱は「マーラー」と「アジア地域への眼差し」で、これらの作品を軸に、ウォン×日本フィルならではの演奏を強くアピールしていく。

とりわけ近代以降の日本をはじめとして、アジア諸国の作曲家の作品を掘り起こすカーチュンの活動は、ファンに強いインパクトを与えうるため、事前事後の発信もしっかり強化していく。

２０２４年度は、坂本龍一曲集などユニークかつ時勢に応じた価値観を通じて新たな芸術的感性や文化的多様性を表現することで、日本フィルの存在感を一層向上させていく。

◆芸術性のあくなき追求

優れた芸術作品の優れた表現者としての機能強化のため、内外の秀でた指揮者との共演による多彩な表現力の実現を引き続き追求してゆく。

広上淳一とは、東京のみならず数々の地方公演や日本フィルハーモニー協会合唱団との協働などを含めて活発なコンサートを実施する。
そして、昨年、正指揮者を離任した現バーミンガム市交響楽団首席指揮者山田和樹とは、イギリス作品の重点的取組を継続し、計画的に幅広くレパートリーの拡大を図っていく。

今後は、３年にわたり上演計画を延ばさざるを得なかった合唱作品への積極的な取組み、再びアーティストとの国際的な交流も活発化させ、コロナ禍で公演機会が失われた作品への取組み、共演の機会を取り戻す。

◆社会への積極的取り組みの強化

名曲コンサートや親子向け公演、地方公演などを通じて、文化の普及・波及にも積極的に関わり、芸術の追求と普及に努める。

また、社会からの芸術団体への要請が増加・多様化している現在、より積極的に地域活動や教育活動に取り組み、さまざまな連携を通じて「社会包摂」「社会課題への取り組み」の実践を強化し、社会における新しいオーケストラ像を積極的に模索する。

２０２４年度は、引き続き聴衆の回復や各種会員の獲得に全力を注ぎ、長期的に中断しているイベントやワークショップ等のコミュニケーション機会を再開したい。また映像活用等で「アフターコロナ」に向けた新たなスタイルでの積極的な情報発信開始をスタートさせる。

◆企業・自治体等との連携によるコミュニケーションの創出と支援開拓

２０２４年度、企業連携の公演として、ローム株式会社協賛により８回目となる夏休みコンサート IN 京都、並びに４回目となる「コバケン・ワールド IN KYOTO」を開催。
また企業自治体連携としては、宇部市における「第１７回 UBE クラシックコンサート（次世代音楽文化振興事業　日本フィルハーモニー交響楽団宇部公演）が予定されている。

２０２４年度も、芸術性活動のみならず、社会性活動への理解と連携促進を行うことにより、日本フィルの活動への参画を提案し、新しい連携体制を構築しながら企業の主催、協賛、特別会員のさらなる回復と増加に努める。また、社会課題・企業課題・学校課題に正対した、オーケストラならではの新しいコミュニケーションモデルを創出し、価値提供を行うことで日本フィルのファン、ひいては聴衆の増加へつなげていく。

２．エデュケーション・プログラム、リージョナル・アクティビティ

社会性を担う活動であるエデュケーション・プログラム、リージョナル・アクティビティは、日本フィルの活動の大きな特徴であり、特に近年オーケストラへの要請が高まっている分野でもある。子どもたちの音楽を通じた創造的な成長への取り組み、地域コミュニティと連携した活動により地域の活性化や課題等に取り組んでいく。

◆エデュケーション・プログラム

日本フィルのエデュケーション・プログラム（教育活動）の屋台骨であり、３世代２万人を集める日本フィルが誇る教育型プログラム「夏休みコンサート」が 50 年の節目を迎える。
「柔らかな感性を持つ子供に生の音楽を、身近に」という当初の趣旨は、「子どもと家族のクラシック初体験」の機会として、3 世代で楽しめる家族のコミュニケーションの機会としてもその趣旨を強めてきた。
今年度もバレエとピアノの２種類の公演により、首都圏近郊及び京都で例年通りの公演開催を計画している。

京都市で開催している「小学生からのクラシック・コンサート」や、杉並公会堂との共催による 0 歳から入場できる「春休みオーケストラ探検」といった体験型のプログラムによるエデュケーション・コンサートも他に例のない意欲的な取り組みとして、２０２４年度も新規企画により実施する。また、製作したプログラムの再演や他地域での展開も模索していく。

◆ワークショップ

コミュニケーション・ディレクター、マイケル・スペンサーとの契約から 10 周年となる。これまでのワークショップの取組の継続は、この分野における日本フィルの個性の表出につながり、また楽員にとっても、実技面とは別の視点から演奏楽曲への理解を深める機会として楽団の芸術性の向上にも寄与しうるプログラムとなってきた。

２０２４年度は、音楽作りを通じてこどもたちの創造性を高めるワークショップ事業を継続し、オーケストラの魅力を深く味わうためのワークショップ「オケのテイキは、面白い」の開催（４月）や女子美術大学との恒例のワークショップ（９月）を予定。また、スペンサー氏からの知見をもとに、楽員自身によるワークショップへの展開の取組、これまでのプログラムのアーカイブ化などの取組を行っていきたい。

◆地域での活動

（1）杉並区：自治体との協働をさらに進める

杉並区とは２４年に友好提携の締結３０周年を迎える。本拠地を置く自治体ならではの特色ある活動をさらに推進していく。

区内の様々な地域を室内楽で訪問する「出張コンサート」、公開リハーサルや区役所ロビーコンサートのほか、１１月には３０周年記念コンサートを開催、家族向けの公演を行う。また、「敬老会」「成人式」「賀詞交歓会」などへの出演を通じて区民の文化的環境の充実に貢献する。
楽団の本拠地として公演・リハーサルを多数実施する杉並公会堂は、２０２４年秋まで改修休館中である。代替として、区の施設であるセシオン杉並を有効活用する。また西荻地域区民センター及びセシオン杉並との共催により「６０歳からの楽器教室」を実施するなど、区内での連携・活動をさらに発展させていく。

（２）九州、宇部、その他地域での継続的取組み

５０年目を迎える日本フィル伝統の「九州公演」。２０２４年度も各地の実行委員会との協働により、首席指揮者カーチュン・ウォンとともに全県９都市でオーケストラ・コンサートを開催。このオーケストラ公演を核としたその他の地域活動として、近年は行政との連携も進めている。
大牟田市と日本フィルは２０２２年８月、「音楽を通した魅力あふれるまちづくり推進協定」を締結した。また唐津市では、市民会館のリニューアルオープン（２０２５年度予定）までの期間、室内楽等での教育・地域活動を行政と連携して行う計画である。

山口県宇部市では、UBE 株式会社の主催により市・教育委員会とともに開催するオーケストラ・コンサートを軸に、公演前後に学校や病院の訪問活動を行うなど、１５年以上にわたり地域の文化向上に努めている。２０２４年度も引き続き、オーケストラ・コンサートと合わせこれらの活動を継続する。

（３）室内楽を通した活動

室内楽編成では、こどもたちが音楽に身近に親しみ、関心と理解を高めるための小中学校への室内楽アウトリーチを、杉並区、埼玉県内で自治体との連携により実施する。
室内楽を通じた活動は日本フィルの温かさや個性を身近に感じてもらう特徴ある活動であり、２０２４年度も杉並区、埼玉県をはじめ各地で多数の公演を開催する。

３.「被災地に音楽を」「東北の夢プロジェクト」（被災地での音楽活動）

日本フィルは、音楽による被災地支援活動を１９９５年阪神淡路大震災時に１年間にわたり実施、２０１６年熊本地震等でも活動を行った。中でも被害の甚大であった２０１１年東日本大震災への支援活動は、現在まで１３年にわたって継続し、沿岸の被災地に３４２回にわたって音楽を届けてきた。

震災発生から１０年を経た頃から人々の東北へ関心は薄まりつつあるが、依然として東北地方沿岸部は様々な課題を抱えている。日本フィルは音楽を通じて被災地域のために何ができるかを模索し、現地の方々とコミュニケーションを深めながら活動を続けている。
この継続的な活動に対して昨年度、後藤新平賞を受賞した。また岩手県との協定を結び活動の基盤を強化している。

２０２４年度は福島県との包括連携協定の締結が山場を迎える。また２０２３年度から３年間の助成が決定している「新たなオーケストラ支援事業（上廣倫理財団出資の助成)」を活用し、日本フィルの社会性を支える事業としてのさらなる充実を目指していく。

「被災地に音楽を」としては、音楽による地域活性化に強い期待を寄せている宮古市（岩手県)、石巻市（宮城県)、南相馬市（福島県）への継続的な活動を行う。２０２３年度から取り組みを開始した陸前高田市（岩手県)、双葉町（福島県）は原発や甚大な津波の影響を強く残しており、県や地元の自治体と連携しながら息長く取り組む計画である。２０２４年度も上記の各地を室内楽等で訪問する。

岩手県・福島県で開催している「東北の夢プロジェクト」は、東北各地のコミュニティや学校で音楽や郷土芸能などの文化活動に取り組む子どもたちを共演者に招き、その活動の素晴らしさ、笑顔と輝きを地域内外の人々が応援し、新たな文化的価値・魅力を発信している。岩手県では実行委員会としての２年目の開催、福島県では福島県のさらなる協力を得ながら充実した公演を、いずれも８月に行うほか、共演団体の活動地域を事前に音楽家が訪問し、交流事業を行う。

「新たなオーケストラ支援事業」を活用し、２４年度は福島県南相馬市を初めてオーケストラで訪問する。吹奏楽や合唱が盛んな南相馬市を日本フィル

は震災後毎年訪れており、１３年間で復興が前向きに進んできたこの地域を音楽でさらに応援するべく、ゼロ歳から入場可能な公演と中学生を招待しての一般向けの公演、計２公演を４月に実施する。

４．演奏コンテンツの活用：映像、音源、配信を活用した新たな事業展開

コロナ禍において拡大した公演のライブ／アーカイブ配信は、オーケストラおよびクラシック業界においては一般的に収益が見込めず取組が減少している。いっぽう、映像、音源、配信に関する事業については新たなオンライン技術等の向上によりその可能性が広がっている。日本フィルは有料の映像配信、音源配信、ライブビューイングなどをこの間に実施してきているが、「ライブ（リアル）とアーカイブのベストミックス」により、新たな事業の可能性を追求する。

◆BS 朝日『Welcome クラシック』(毎週水曜 22:54-23:00 レギュラー放送)出演
クラシック音楽をより親しみやすいものにするための情報や取り組みを紹介する日本フィル出演番組。カーチュン・ウォン、広上淳一、山田和樹が登場。

◆メンバーズ TVU チャンネルによる映像コンテンツの活用
① 映像を通じたオーケストラの魅力発信
② 地方ホールでのライビュビューイングのトライアル（さいたま定期）
③ 映像のアーカイブの二次活用。収益化モデルの推進

◆JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA RECORDINGS

２０２０年度文化庁「収益力強化事業」により楽団オリジナルレーベルを創設、２０２１年度までに５２タイトルの配信、２タイトルの CD を商品開発、２０２３年度は CD２点、DVD１点、配信２タイトルを新規リリースした。
引き続き下記の３つを主軸方針とし、事業を活発化していく。
① 歴史的音源の発掘紹介（２０２１年度重点課題として対応済み）
② 日本フィルの今の演奏水準を伝える実演
③ 日本人作曲家の作品

◆コンテンツ活用についての諸権利の確保、維持

引き続き、下記の基本方針をもとに、公益財団法人として適切にコンテンツを活用する。
① 実演の原盤権は楽団が所持し、二次使用を促進していく

② 実演家の権利を守り、隣接権は積極的に行使していく
③ 実演家との契約関係について、必要な見直しや契約の強化を進める

エキストラ演奏家とは２０２２年度、「出演依頼」から、電子契約システムよる「出演契約」化を実現しており、引き続き権利保持対応を推進していく。

５．社会の変化に対する音楽団体の関わり

◆テクノロジーを活用した社会的発信－「落合陽一×日本フィルプロジェクト」（オーケストラ音楽をより多くの方に伝える新たな取り組み）

落合陽一氏と共に、テクノロジーの活用によってより多くの方へオーケストラ音楽を届ける新たな事業を、２０１８年以来、毎年実施している。

２０２４年度は、万博を見据えた長期プロジェクトとして「日本文化探訪」企画の第 2 弾新作初演を行う等、引き続きテクノロジーを活用した未来創造的事業を継続、発信する。

【事業計画別紙】オーケストラ・コンサート　主催公演各事業の計画

●東京定期演奏会（サントリーホール、金曜日/土曜日 2 回公演）

2023 年 9 月から首席指揮者に就任したカーチュン・ウォンを中心に、毎回刺激に満ちた高い芸術性と今の日本フィルが誇る演奏力の高さを披露する場を意図して東京定期演奏会のプログラムは構成されている。ウォンとはすでに高い評価と期待を受けているのマーラー（5,3 月）に加えて、今回は生誕 200 周年を迎えるブルックナーが最後に遺した大傑作 9 番のシンフォニーを取り上げる（9 月）。また国内外で破竹の勢いで活躍を続ける沖澤のどかと山田和樹の両氏が登場する（11 月、1 月）点も大いに注目が集まるだろう。11 月には 2022 年 11 月に急遽代役で招き大成功を収めた世界的オーボエ奏者であり指揮者でもあるフランソワ・ルルーが再登場。日本フィルとの新たな絆が生み出される期待が持たれる。他にも桂冠名誉指揮者小林研一郎やフレンド・オブ・JPO の肩書を持つ広上淳一、秋山和慶、下野竜也といったお馴染みの名マエストロたちが名を連ね、彼らが最も得意とするレパートリーや、指揮者にとってもオーケストラにとっても新たな挑戦となる作品がラインナップされた。現在の国際情勢を踏まえ、桂冠指揮者であり日本フィルにとって非常に大事なマエストロの 1 人であるアレクサンドル・ラザレフの登場回を設けられなかったことは痛恨の極みであるが、それを補って余りある充実した成果を収められるよう意図した。

	No.	出演	プログラム
4 月	759	指揮：下野竜也	シューベルト：交響曲第 3 番 ブルックナー：交響曲第 3 番(第 2 稿)
5 月	760	指揮：カーチュン・ウォン （首席指揮者）	マーラー：交響曲第 9 番
6 月	761	指揮：秋山和慶 ホルン：信末碩才（首席奏者）	ベルク：管弦楽のための 3 つの小品 R.シュトラウス：ホルン協奏曲第 2 番 ドヴォルジャーク：交響曲第 7 番
7 月	762	指揮：広上淳一（フレンド・オブ・JPO） ヴァイオリン：米元響子	リゲティ　ヴァイオリン協奏曲 シューベルト　交響曲第 8 番《グレート》
9 月	763	指揮：カーチュン・ウォン （首席指揮者）	ブルックナー：交響曲第 9 番
10 月	764	指揮：小林研一郎（桂冠名誉指揮者） ピアノ：高木竜馬	ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番 ブラームス：交響曲第 1 番
11 月	765	指揮：フランソワ・ルルー	ラフ：シンフォニエッタ （ダブル・クインテットのための） メンデルスゾーン（タルクマン編曲）： 「無言歌集」より 7 曲 20') メンデルスゾーン：交響曲第 3 番《スコットランド》
12 月	766	指揮：沖澤のどか ピアノ：セドリック・ティベルギアン	ブラームス：ピアノ協奏曲第 2 番 シューマン：交響曲第 2 番

1 月	767	指揮：山田和樹 ヴァイオリン：周防亮介	エルガー：行進曲《威風堂々》第 1 番 ヴォーン＝ウィリアムズ：揚げ雲雀 エルガー：交響曲第 2 番
3 月	768	指揮：カーチュン・ウォン （首席指揮者） ソプラノ：未定 メゾ・ソプラノ：未定	マーラー：交響曲第 2 番《復活》

●横浜定期演奏会（横浜みなとみらいホール、各回土曜日）

東京定期演奏会と並んで日本フィルの芸術的活動の一翼を担う横浜定期演奏会。人気スポットみなとみらい地区における夕方 5 時開演のコンサートとして、若い世代からシニア層にまで足を運んで頂けるような企画を意図している。つまり「芸術至上」というスタンスだけではなく、クラシック音楽初心者に対しても門戸を開いたプログラム作りを目指している。24 年度で言えば人気のショパンの特集（4 月）やベートーヴェンが遺した永遠の傑作《皇帝》&《田園》(6 月)、毎年恒例の第九演奏会（12 月)、ジャズの巨匠 M.ルグラン作品（1 月）などを、例として挙げることができる。一方で「定期」の名に相応しく、規模の大きな作品や一筋縄ではいかない難解な作品も臆せず取り組んでゆく。出演者に関しても、横浜定期では異例となる「弾き振り」を披露してくれる横山幸雄（4 月）や 24 年 12 月をもって引退を表明し 5 月の横浜定期が日本フィルとは最後の共演となる井上道義、日本フィルの桂冠名誉指揮者小林研一郎と現代ロシア最高のピアニスト エリソ・ヴィルサラーゼとの共演（6 月)、若き首席指揮者カーチュン・ウォンと大家ゲルハルト・オピッツとの共演（9 月）など、単なる名声や知名度に頼ることなく、一期一会と唯一無二が組み合わさった特別な時間を提供したいと思っている。また引き続き開演前の学識者によるプレトークも実施し、よりわかりやすいコンサートづくりに努めている。1 月と 7 月の回の終演後には、来場者とオーケストラメンバーや指揮者、ソリストが集う懇親会「シーズン・ファイナル・パーティ」もロビーで実施する。

	No.	出演	プログラム
4 月	396	指揮・ピアノ：横山幸雄（弾き振り）	ショパン：「ドン・ジョヴァンニ」の 「お手をどうぞ」の主題による変奏曲 ショパン：アンダンテ・スピアナートと 華麗なる大ポロネーズ ショパン：ピアノ協奏曲 2 番
5 月	397	指揮：井上道義 チェロ：佐藤晴真	ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲第 2 番 ショスタコーヴィチ：交響曲第 10 番
6 月	398	指揮：小林研一郎（桂冠名誉指揮者） ピアノ：エリソ・ヴィルサラーゼ	ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第 5 番《皇帝》 ベートーヴェン：交響曲第 6 番《田園》
7	399	指揮：鈴木優人	トマジ：バラード

月		サクソフォン：上野耕平	ピアソラ（啼鵬編曲）： 『エスクアロ（鮫）』 『オブリビオン（忘却）』 『リベルタンゴ』 ベートーヴェン：交響曲第 7 番
9 月	400	指揮：カーチュン・ウォン （首席指揮者） ピアノ：ゲルハルト・オピッツ	ブラームス：ピアノ協奏曲第 2 番 チャイコフスキー：交響曲第 4 番
10 月	401	指揮：出口大地 チェロ：鳥羽咲音	ハチャトゥリアン：バレエ音楽《スパルタクス》より 「スパルタクスとフリーギアのアダージョ」 カバレフスキー：組曲《道化師》 チャイコフスキー：ロココ風の主題による変奏曲 ムソルグスキー（ラヴェル編曲）：組曲《展覧会の絵》
11 月	402	指揮：ピエタリ・インキネン ヴァイオリン：神尾真由子	グラズノフ：ヴァイオリン協奏曲 R.シュトラウス：アルプス交響曲
12 月	403	指揮：下野竜也 ソプラノ：冨平安希子 アルト：小泉詠子 テノール：糸賀修平 バリトン：宮本益光	ニコライ：オペラ《ウィンザーの愉快な女房達》序曲 ベートーヴェン：交響曲第 9 番《合唱》
1 月	404	指揮：藤岡幸夫 フルート：Cocomi	武満徹：組曲《波の盆》 モーツァルト：フルート協奏曲第 2 番 ルグラン：交響組曲《シェルブールの雨傘》
3 月	405	指揮：小林研一郎（桂冠名誉指揮者） ヴァイオリン：中野りな	チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 リムスキー=コルサコフ:交響組曲《シェエラザード》"

●夏休みコンサート

多くの子供たちが、夏休みに家族とともに身近なホールで音楽にふれ、その情操を高めていくことを願い続けてきた夏休みコンサートは、今年記念すべき 50 年目を迎える。料金は通常のコンサートに比べ廉価で設定（ただし大人料金については値上げを実施）し、聴衆層の拡大、特に未来のクラシック音楽ファンの育成につとめる。2024 年度も一都三県 17 回と京都 1 回、計 18 回の主催公演、そして依頼公演としても 1 回出演（「東北の夢プロジェクト」で準じた内容で 2 回開催）。

2024 年はチャイコフスキーのバレエ《くるみ割人形》と、ピアノをメインに据えた企画を第 2 部とする。

指揮／梅田俊明、永峰大輔　司会とうた／江原陽子

第 2 部の出演／上原彩子（ピアノ）、スターダンサーズ・バレエ団

●その他の演奏会（首都圏）

幅広い聴衆育成とクラシック音楽の普及を目指し、多彩な公演事業を行う。

桂冠名誉指揮者小林研一郎氏との「コバケン・ワールド」「第九特別演奏会」は、たいへん人気を博すシリーズとして定着しており、日本フィルの特徴ともいえる公演として認知されている。この 2 シリーズを軸に、「名曲コンサート」、「芸劇シリーズ」、「特別演奏会」等でさらなるクラシック音楽の普及に取り組む。また、いわゆる音楽中間層に対する様々な施策にも取り組んでいく。

●その他の演奏会（首都圏以外）

17 回目となる宇部公演（宇部興産チャリティ・コンサート）は 10 月 13 日に開催。指揮は宇部公演初登場となる大井剛史氏が担当する。

また 9 月 28 日には、4 回目となる「コバケン・ワールド in KYOTO」を実施。（協賛：ローム株式会社、助成：ローム ミュージック ファンデーション）。

●九州公演

いよいよ 50 年目を迎える九州公演は、2025 年 2 月に、九州全 7 県で 10 公演を行う見込み。指揮は現首席指揮者カーチュン・ウォンが務める。

本ツアーは地元実行委員会同士の固い連携と熱い信念に基づく働きかけによって実現されている。記念すべき 50 年目を契機に、九州公演ならではの人と人との温かな交流を通じてより一層の感謝の意をあらわし、地域の文化振興に寄与するよう努めてゆきたい。

●その他の主な主催演奏会

落合陽一×日本フィルハーモニー交響楽団プロジェクトは、VOL.8 公演を 8 月 23 日に開催。2025 年開催の大阪万博出演計画を踏まえ、3 年間にわたり日本の伝統的な音楽素材とオーケストラの融合を目指した新作委嘱の第 2 弾（藤倉大）等を計画し、オーケストラの新たな可能性を追求する。クラウドファンディングによる資金調達（READYFOR）も実施予定。

杉並公会堂との共催で継続開催する「春休みオーケストラ探検」は、全館を利用し、2 回のオーケストラ・コンサートの他、楽器体験やソロ・リレーコンサートなど多彩なプログラムをお楽しみいただく予定である。

●その他の主な共催事業

ホールとの連携による事業開催は、地元の杉並公会堂はもちろんのこと、サントリーホール、大宮ソニックシティ、府中の森芸術劇場、相模女子大学グリーンホールなどで引き続き積極的に継続していく。サントリーホールとの共催事業「とっておきアフタヌーン」は 2023 年度より「にじクラ」にブランドリニューアルし、さらなる聴衆の裾野の拡大を目指しており、その目標は集客数という形で着実に実績を積みつつある。